岐阜県西濃地域と東濃地域における子育て支援の現状と課題

―子育て支援者への調査を手がかりに―

今村民子*・馬淵恵子**・今村光章

＊大垣女子短期大学

＊＊岐阜県職員

Present situation of child care support for families in Gifu prefecture

Tamiko IMAMURA, Keiko MABUCHI and Mitsuyuki IMAMURA

１．本論文の課題設定――地域に密着した子育て支援のありかたを探る

本稿の目的は，地域に密着した子育て支援のありかたについて検討し，子育て支援に従事する関係者らに，身土不二ともいえる子育て支援のありかたを検討するための情報を提供することである。この目的を遂行するために，本稿では，岐阜県西濃地域と東濃地域の比較検討を通じて，地域の違いを例証したい。

このような調査報告研究を実施するのは，筆者らが，これまでの一連の研究において，岐阜県の５圏域の子育て支援の調査研究を実施しており，その調査を踏まえて西濃と東濃の子育て支援の比較検討をするための十分な礎があるためである。それらの先行研究について簡単に触れておこう。

岐阜県でのセンターへのアンケート調査は，今村ら（2004，2005）の研究によれば，岐阜県下においての地域子育て支援事業の現状と課題を検討するために，調査票による研究で，各センターの概要や子育て支援者の思いなどが調査され，報告がまとめられている。また，徳広ら（2008）の研究によっても，岐阜県内のすべての幼稚園・保育所・地域子育て支援センターが調査され，実際の施設で取り組まれている内容や子育て支援者の思いが分析されている。とりわけ，子育て支援者への意見や考えを問う項目では，現場の声がより効果的に現れていると考察されている。さらに，今村ら（2009）は，岐阜県東濃地区，及び西濃地区における子育て支援センターの現状と課題について質問紙等を通じて検討を行っている。しかし，この報告では主に子育て支援者の研修会について論じられているため，子育て支援者への深い質問は少ない。とくに，対象者の数も東濃地区では，14箇所の施設で33人に行っているのに対し，西濃地区では19人と地区全体で行われた調査とは言い難い。また，居﨑ら（2009）も西濃地区の研究を実施しているが，十分とは言えない。

以上のように，岐阜県の調査は行われてはいるものの，子育て支援者の意見に特化し，二つの地域を本格的に比較検討した研究はない。そこで，本調査では，西濃地域と東濃地域に焦点を当て，地域子育て支援センターの概況とその支援者の思いや意識を調査し，課題を見出したい。

もとより，岐阜県という限定的な地域のなかで，しかも狭い地域の比較検討が，果たして地域に密着した子育て支援のありかたを考える手がかりになるかという疑問もあろう。むろん，そうした批判はあるだろうが，狭い地域，しかも岐阜県に限ったという点において，かえって地域の特性を生かす子育て支援のありかたが見えてくるようにも思われる。

本報告が，岐阜県の子育て支援だけではなく，全国の地域ごとの子育て支援の充実につながるという視点を持ちながら，以下では調査結果を報告したい。

ところで，ここで岐阜県になじみのないかたのために，本調査の対象となる地区について，ごく簡単にその概要を示しておこう。

まず，岐阜県西濃地区は，岐阜県南西部に位置し，大垣市，海津市の２市と，養老郡（養老町），不破郡（垂井町，関ヶ原町），安八郡（神戸町，輪之内町，安八町），揖斐郡（揖斐川町，大野町，池田町），の４群９町の地域で構成されている。西濃地区の人口は，約38万人であり，うち４割以上が大垣市である。

西濃地区の子育て支援拠点施設は，厚生労働省による平成24年４月の調査の時点で49か所である。そのうち，「ひろば型」，「センター型」で子育て支援を行っている施設（NPO団体は除く）22か所を対象に本アンケート調査を行った。

他方，岐阜県東濃地区は，岐阜県南東部に位置し，多治見市，中津川市，瑞浪市，恵那市，土岐市の５市で構成されている。東濃地区の人口は，約34万人である。

東濃地区の子育て支援拠点施設は，厚生労働省による平成24年４月の調査の時点で24か所である。西濃地区とのアンケート結果との比較を行うため，この24か所へも同様のアンケート調査を行なった。

どちらにおいても，厚生労働省が発表した岐阜県子育て支援拠点施設の設置箇所一覧（平成24年４月１日現在）を参考にして，岐阜県西濃地区のセンターにアンケート用紙を配布・回収した。また，同じ内容のアンケート用紙を岐阜県東濃地区のセンターにも配布・回収をし，西濃地区と東濃地区との比較を行なった。東濃地区のセンターについては先行研究があるため，その論文とも比較検討して，西濃地区の特徴や問題点を明らかにしていきたい。

２．調査の内容・方法，および結果（１）西濃地域

２－１　調査の内容と方法

まず，岐阜県西濃地区における地域子育て支援センターでの概況，一日の支援の流れ，他機関とのつながりの有無等を把握し，現状と課題を探求する。次いで，センターで支援者として勤務している方々の考えや悩み等を問い，今後の課題を見出すことである。

昨今では，子育て支援はさまざまな展開を見せている。しかし，先行研究からも分かるように，より地域に密着した調査は少なく，実際の現場についての課題を見出すには不十分である。そこで，地域の実情に即した調査のひとつとして調査を実施した。とくに，子育て支援者の方がどのような思いや課題を感じながら現場で支援を行っているのかを分析した。この分析から，今後の西濃地区に求められている課題を発見したい。

調査方法は以下の通りである。

厚生労働省が発表した岐阜県子育て支援拠点施設の設置箇所一覧（平成24年４月１日現在）を参考にして，岐阜県西濃地区において「ひろば型」及び「センター型」をとっているセンターに，施設の概要を記す用紙1枚と，アンケート用紙をその所属機関のすべての職員の方に郵送で依頼し，返信用封筒にて郵送で返信していただいた。実施期間は，平成25年10月23日から11月19日である。

まず，アンケート回収率については，送付したセンターが22施設であり，うち，返信頂いたセンターが15施設で，回収率は約68％であった。送付アンケートは66枚で，うち，返信頂いたアンケート数は33枚で，回収率は50％であった。

調査内容は，質問紙における無記名選択式・自由記述式調査で，回答者自身に関することとして，年齢，性別，既婚・未婚の別，子どもの有無，孫の有無，業務歴，資格，立場，勤務形態，前職業である。また，子育て支援事業者の人材の性格や資質に関する項目，子育て支援にかかわる研修に関する項目，子育て支援機関のネットワークづくりに関する項目，子育て支援事業に参加する親に関する項目，相談業務に関する項目，深刻な相談への対応に関する項目，および，自由記述による回答項目

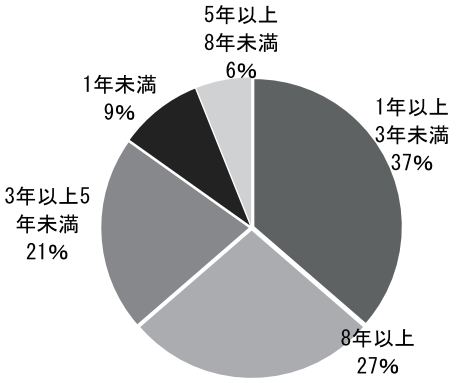
で，研修を受けたい内容，相談の受け方，これからの西濃地区の子育て支援に必要なものを尋ねた。

２－２　結果

まず，年齢は，25歳から29歳が３％，30歳から39歳が27％，40歳から49歳が31％，50歳から59歳が21％であった。性別は男性が６％，女性が94％である。既婚者が91％，未婚は９％。子どものいる支援者は88％，孫がいる支援者は18％であった。

以下，業務歴等については，以下の通りである。Fで番号が付されているが，これは質問紙のフェイスシートの番号である。6番からはじまっているのもそのためである。

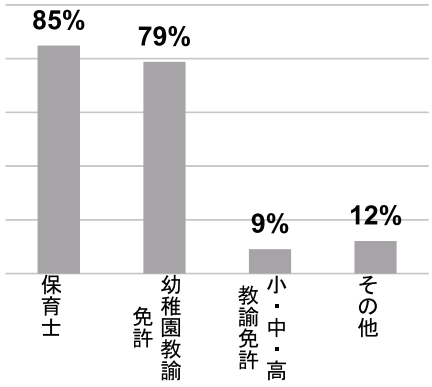
Ｆ６：あなたは子育て支援に関する業務に何年かかわっていますか。



N＝33

図６　業務歴

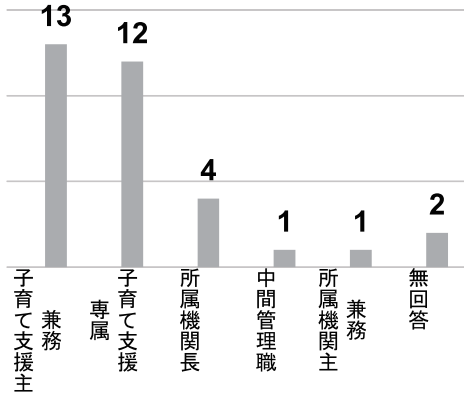
Ｆ７：あなたの持っている保育・幼児教育関係の資格について，当てはまるものすべての番号に〇印をつけてください。



N＝33

図７　資　格

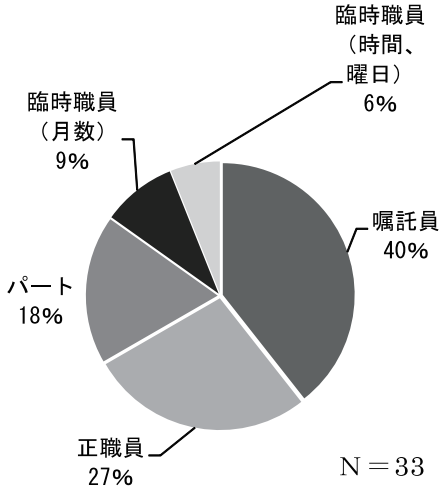
Ｆ８：あなたの現在の所属機関での立場は，次のうちどれに該当しますか。
（なお，この表は実数で表す）



N＝33

図８　立　場

Ｆ９：あなたの勤務形態はどのようなものですか。



N＝33

図９　勤務形態

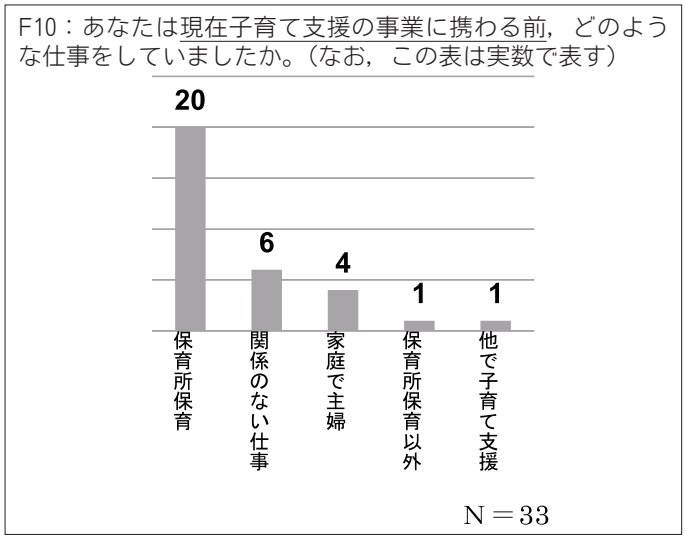


図10　前　職

以下の回答は，各項目について

1．全くそう思う　2．そう思う　3．どちらでもない　4．そう思わない　5．全くそう思わない，で答えていただいた。なお，以下の表は実数で表す。

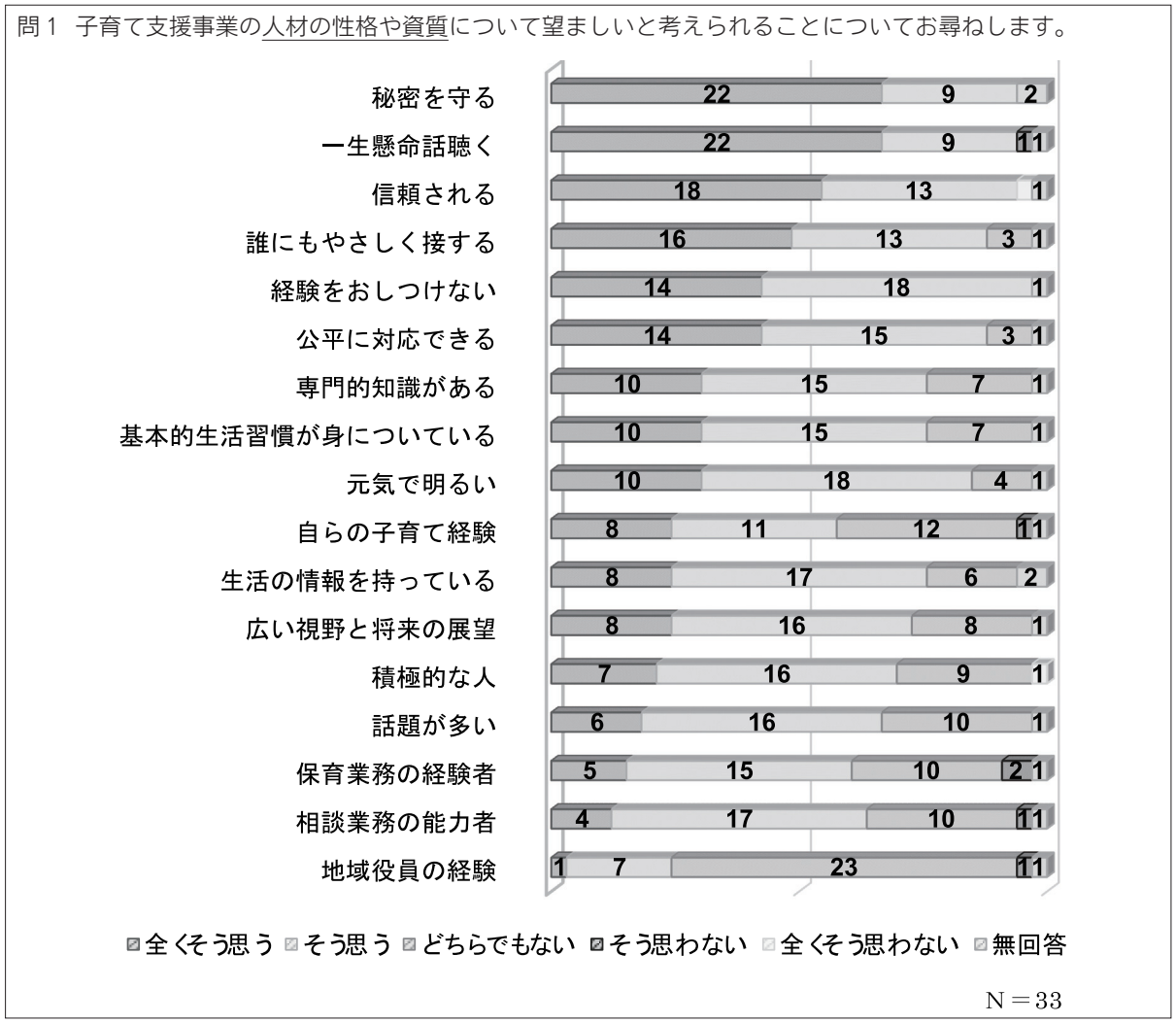


図11　人材の性格や資質

問２　子育て支援にかかわる研修についてお尋ねします。

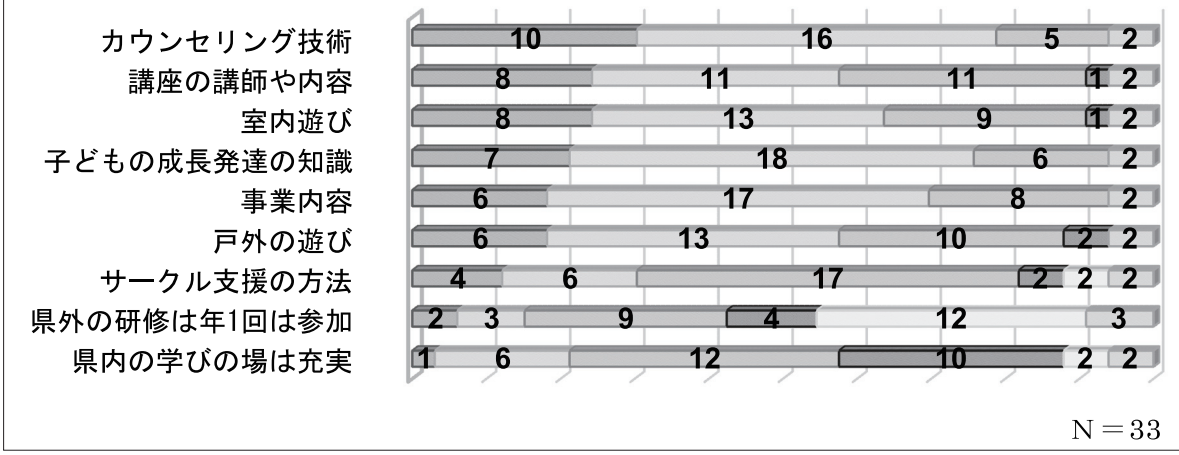


図12　研修について

問３　子育て支援機関のネットワークづくりについて現状をお尋ねします。

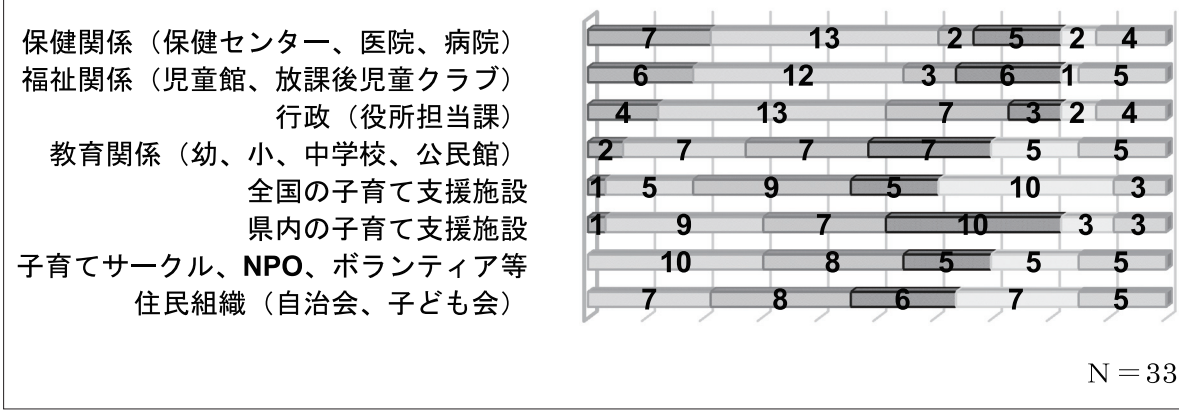


図13　地域でのネットワークづくり

問４　子育て支援事業を利用する親について，また相談業務のことについてお尋ねします。

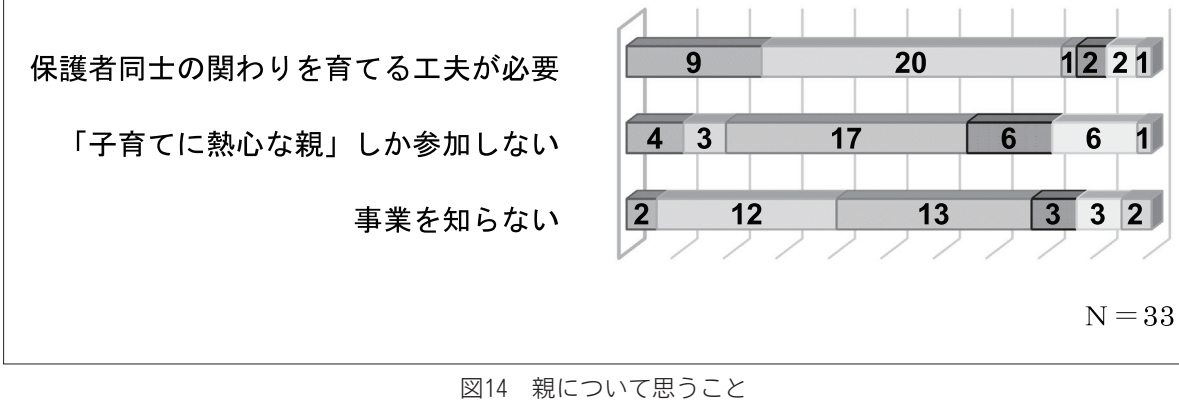


図14　親について思うこと

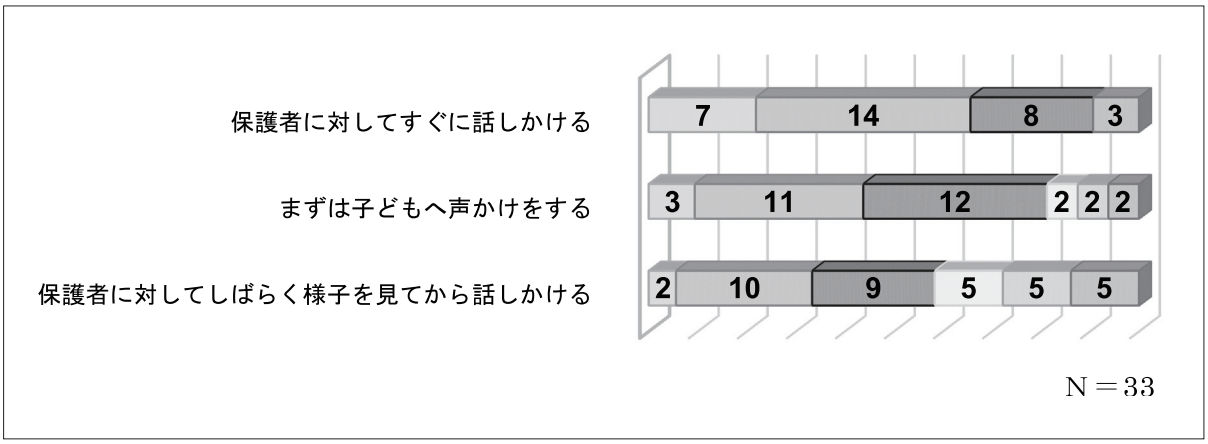


図15　声かけの工夫

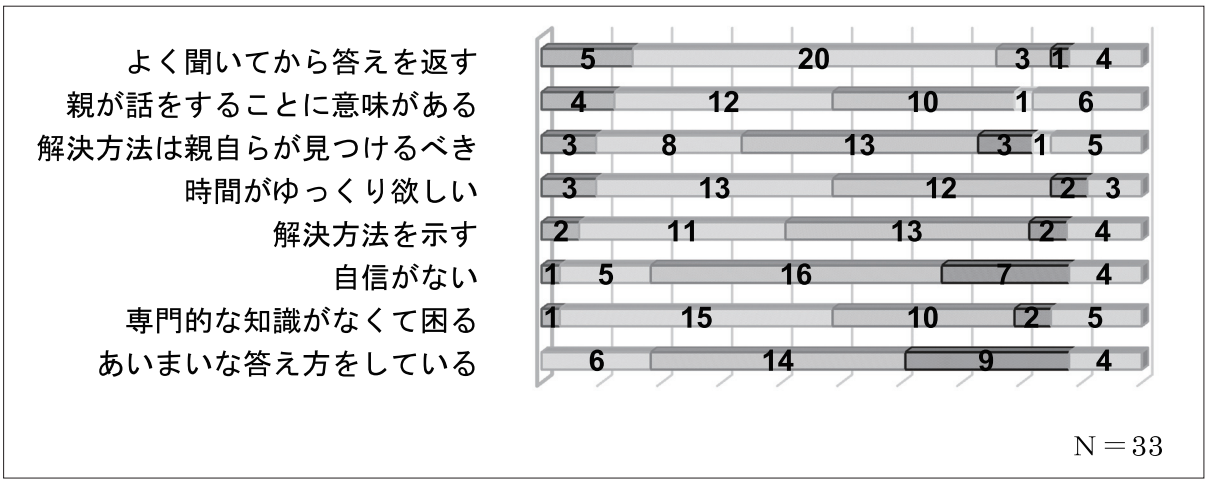


図16　相談について

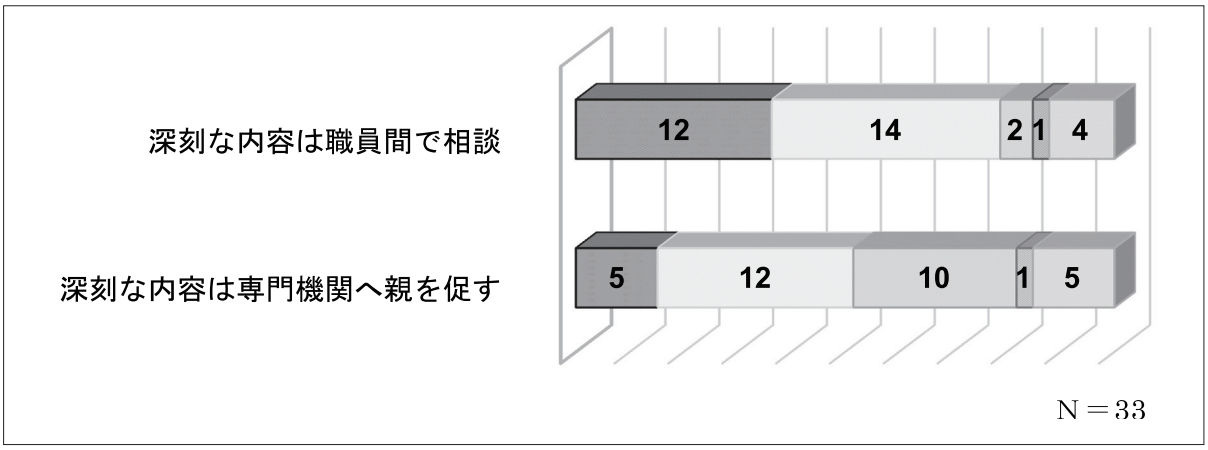


図17　深刻な相談への対応

３．調査の内容・方法，および結果（２）東濃地域

３－１　調査の内容と方法

岐阜県西濃地区でのアンケート調査との比較を行うために，岐阜県東濃地区でも同様の内容のアンケート調査を実施した。方法，内容は上記と同様である。

返信頂いたセンターは，17施設で，回収率は100％。また，ご協力していただいたアンケートは32枚で，返信頂いたアンケート数は32枚で回収率は100％であった。

３－２　結果

年齢は，25歳から29歳が３％，30歳から39歳が９％，40歳から49歳が31％，50歳から59歳が38％であった。性別は男性が３％，女性が97％である。既婚者が91％，未婚は９％。子どものいる支援者は87％，孫がいる支援者は19％であった。

以下，業務歴の内容を示す。前述した西濃の比較対象とするため，図の番号を2−6というように振ってある。

Ｆ６：あなたは子育て支援に関する業務に何年かかわっていますか。

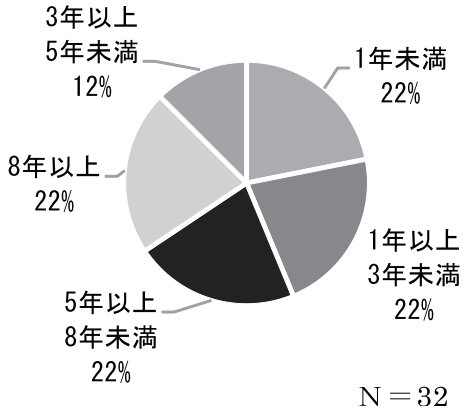


図２－６　業務歴

Ｆ７：あなたの持っている保育・幼児教育関係の資格について，当てはまるものすべての番号に〇印をつけてください。

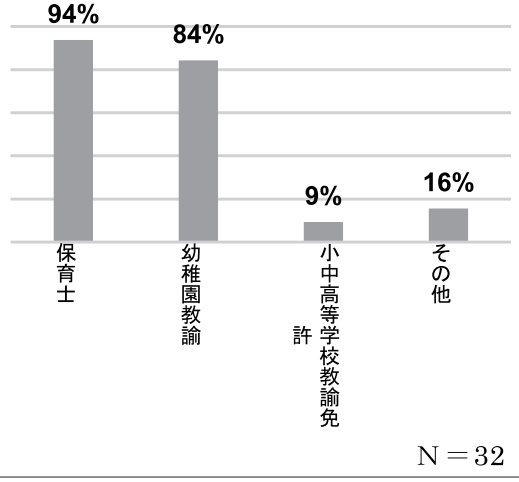


図２－７　資　格

Ｆ８：あなたの現在の所属機関での立場は，次のうちどれに該当しますか。（なお，この表は実数で表す）

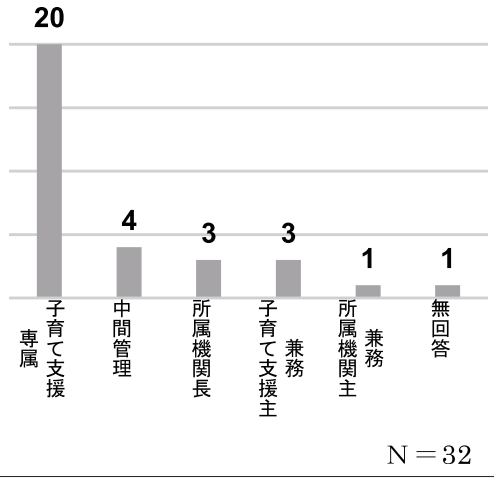


図２－８　立　場

Ｆ９：あなたの勤務形態はどのようなものですか。

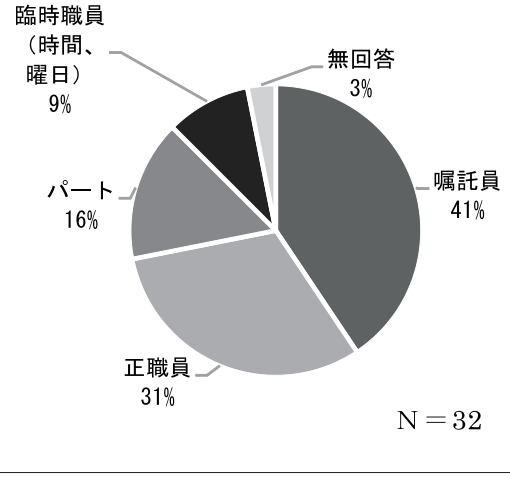


図２－９　勤務形態

F10：あなたは現在子育て支援の事業に携わる前，どのような仕事をしていましたか。（なお，この表は実数で表す）

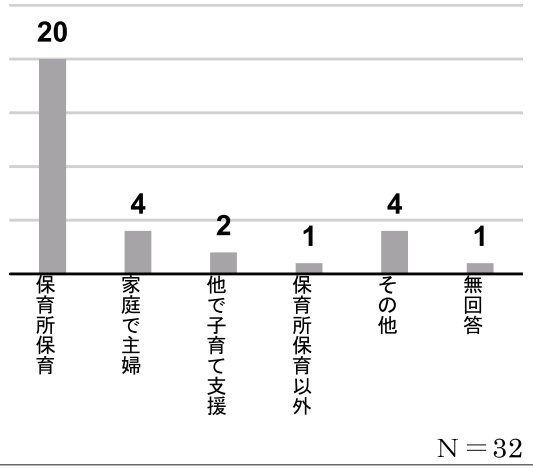


図２－10　前　職

以下の回答は，各項目について
１．全くそう思う　２．そう思う　３．どちらでもない　４．そう思わない　５．全くそう思わない，で答えていただいた。なお，以下の表は実数で表す。

問１　子育て支援事業の人材の性格や資質について望ましいと考えられることについてお尋ねします。

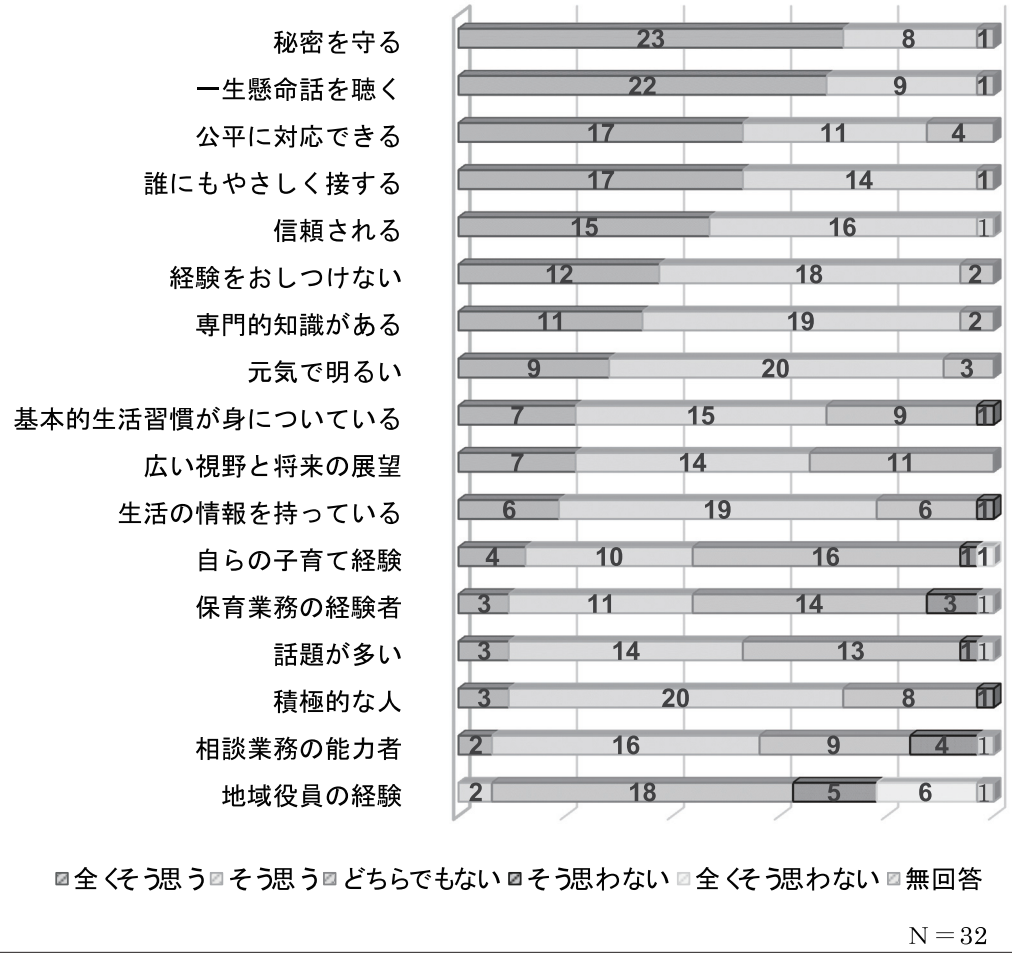


図２－11　人材の性格や資質

問２　子育て支援にかかわる研修についてお尋ねします。

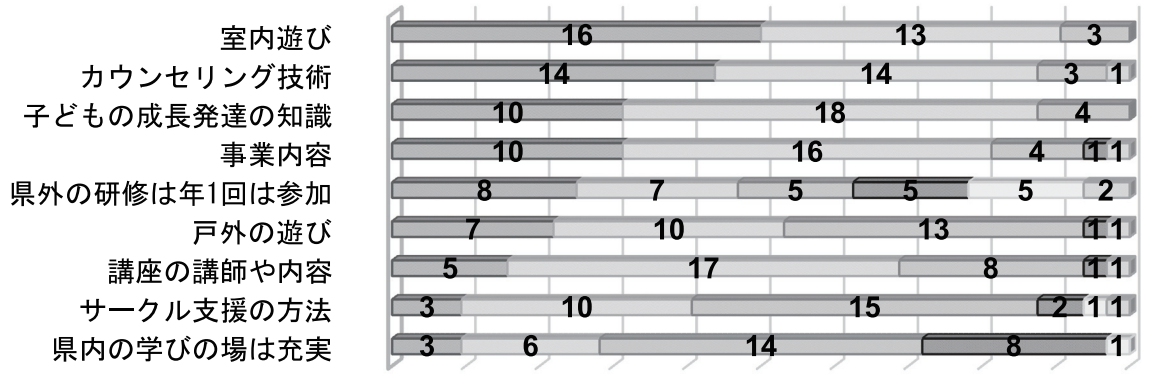


図２－12　研修について

問３　子育て支援機関のネットワークづくりについて現状をお尋ねします。

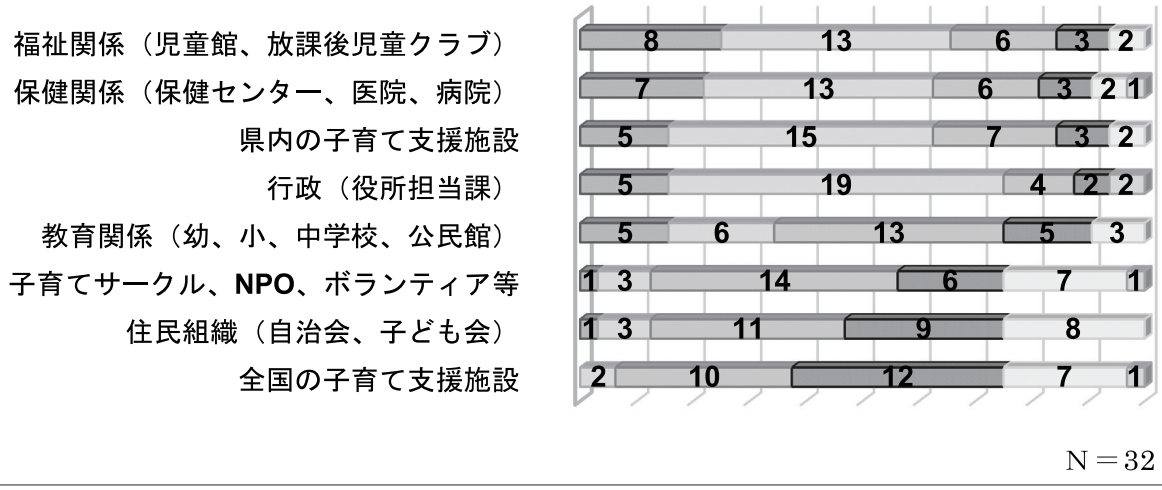


図２－13　地域でのネットワークづくり

問４　子育て支援事業を利用する親について，また相談業務のことについてお尋ねします。

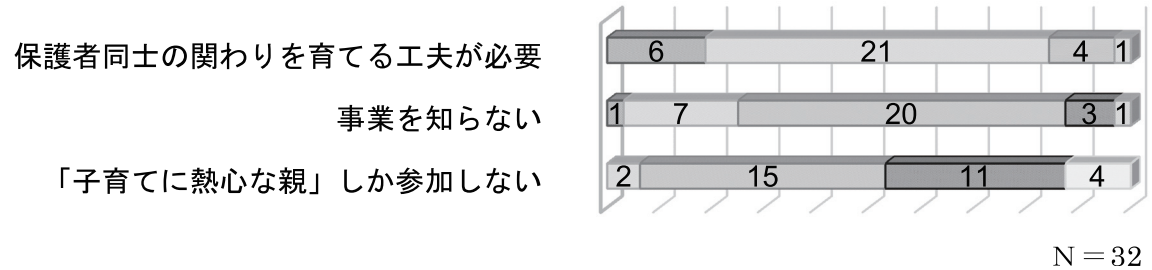


図２－14　親について思うこと

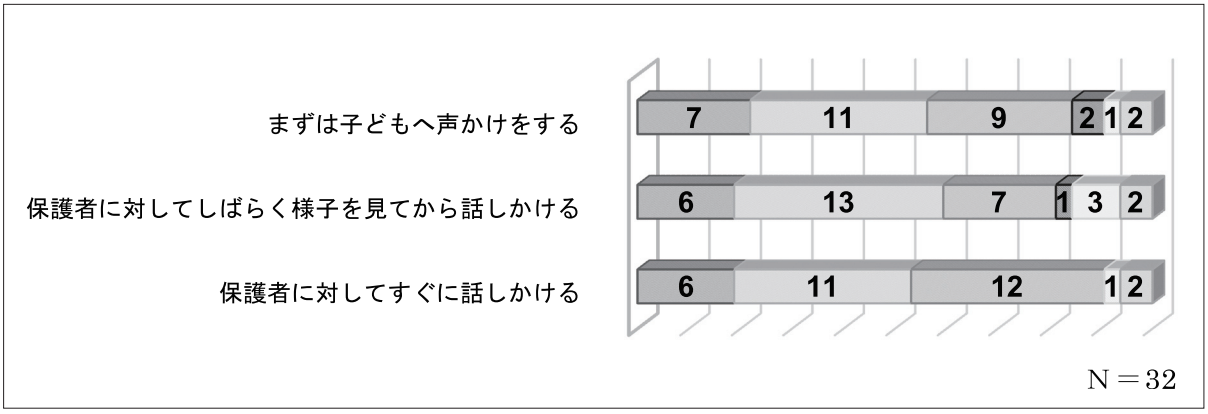


図２－15　声かけの工夫

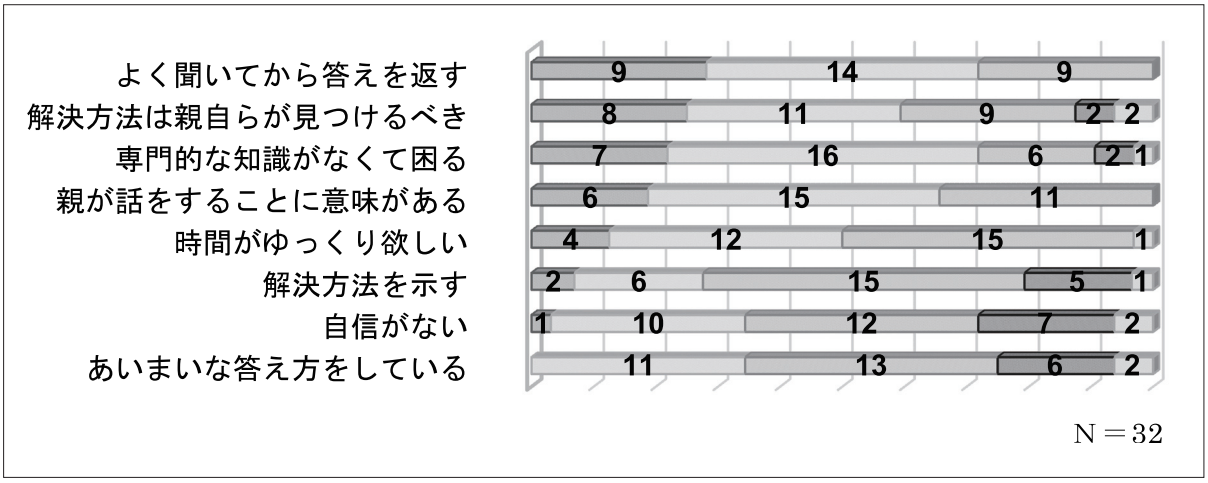


図２－16　相談について

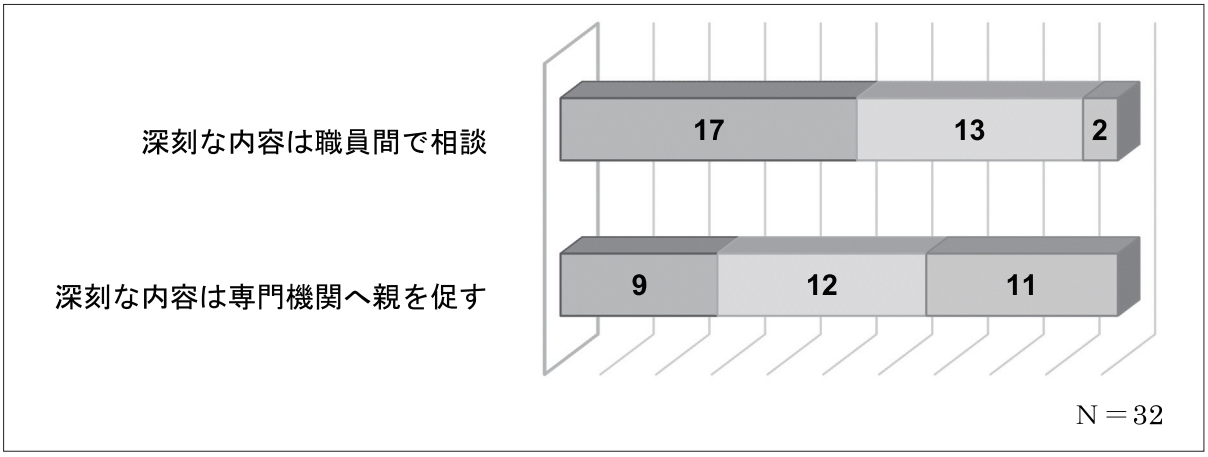


図２－17　深刻な相談への対応

４．西濃地区と東濃地区の結果の比較

本節では，西濃地区と東濃地区の結果を比較して，回答者自身に関するに問いについて，次の三つの特徴を指摘しておきたい。

第一に，回答者の約70％が，40歳～59歳の既婚者の方であり，子育て支援事業を担っていることが明らかになった。両地区とも同様の結果である。

第二に，業務歴については差異がみられた。西濃では，１年以上３年未満の支援者と８年以上の支援者が，合計で全体の約64％を占めていた。他方，東濃では，業務歴に偏りは現れず，幅広い年齢層で子育て支援が行われていた。この差異は，東濃は，おおむね公立の子育て支援センターであるため，職員配置が配慮されているからではないかと推測される。

第三に，立場及び勤務形態についても差異がみられた。通常保育を兼務している立場の者は，西濃では兼務が多いのに比べて東濃地区では大変少なかった。そして，勤務形態では，両地区ともに正職員が約30％に比べ，嘱託員が約41％であった。この結果より，雇用形態の安定化は，両地域とも課題になっている。

ところで，研修についての回答結果についてもここで検討しておきたい。

西濃では，「カウンセリング技術」や「講座の講師や内容」についての研修を望む声が多かったが，東濃では，第一に「室内遊び」が求められていた。このことから，東濃では，各子育て支援センターの子育て支援者自身が，遊びを積極的に提供しようとしていることが推察できる。

また「カウンセリング技術」の研修について，西濃では一番多く，東濃では二番目に多い結果となった。このことから，子育て支援者は常に子育て支援の知識，技能の向上を目指しているということが明らかになった。私たちが，今後地域に提供していくテーマとして重要であることとして受けとめたい。

では，親について思うことにおいては，どのような違いがあるのだろうか。

子育て支援事業に参加する親に関する質問に対して，「子育てに熱心な親しか参加しない」という項目は，西濃では約20％がそう思うと回答したのに対し，東濃ではわずか約６％しか回答をしなかった。そして，「事業を知らない」という質問においては，西濃では約40％がそう思うと回答したのに対し，東濃では約25％しかそう思うと回答をしなかった。この回答差の１つの要因として，回答者自身の質問の際にも取り上げたように，子育て支援センターが公立であるか，あるいは私立や民間によるものかという違いが関係していると推測できる。東濃の子育て支援センターは，おおよそが公立の子育て支援センターなので，行政による子育て支援情報が周知されており，その子育て支援の広がりを子育て支援者自身が把握することができている。さらに，その子育て支援者は専任として自分たちで声かけしているため，そういった子育て支援へ活動について自信があるのではないかと考えられる。

一方で，西濃では，公立のセンター他にも多様な形をとっているセンターが多数あるために，パート等の限られた時間のみで子育て支援に携わっている子育て支援者にとっては，行政の情報もスムーズには入らず，親への周知度等には不安があると考えられる。もちろん，西濃地区にも自分たちの子育て支援に自信を持って活動されている子育て支援センターもたくさんあるだろう。しかしながら，こういったアンケートの結果から，親への周知について不十分だと感じている子育て支援者も存在しているということは明らかである。

５．今後の課題

西濃地区の子育て支援には，ソフト面の充実が必要と考えられる。前出の今村ら（2005）は，自身の岐阜県全域の子育て支援の先行研究の中で，施設面において「施設の拡充が望まれる」とハード面

の不足について述べている。

しかしながら，現在では，施設の数は増え，岐阜県では159か所の子育て支援事業拠点施設が存在している。このハード面の改善は進んでいる。それでも，ソフト面の改善は，まだ発展途上の状態である。今回のアンケート回答の結果，各施設で子育て支援に携わっている方は，平均して，約２人である。拠点施設が拡充していく中，少人数で大勢の親子の育児相談等の対応をしている。また，調査の結果，西濃地区では，子育て支援者の業務歴にかなりのばらつきがみられた。この事実からも人材不足が推測される。とりわけ，西濃の結果からは，子育て支援に従事して１年以上～３年未満の方が多いことから，人材の確保やその人材の育成にも今後，力を入れる必要がある。

次に，子育て支援者へのフォローも必要となってくると言える。西濃地区でのアンケート調査の結果，子育て支援業務のカウンセリング技術等に不安を感じていたり，他施設との連携が密ではなかったりするなど，施設ごとにさまざまな諸問題を抱えているということが明らかになった。

子育て支援は，子育てに不安や悩み等を抱えた親への支援という面が大きいが，その支援を行う側が，支援に苦しんでいては本末転倒だろう。もちろん，子育て支援者に責任があるわけではない。子育て支援に携わっている方々は，本当に子育て支援に一生懸命取り組んでいる。今後，子育て支援がより充実していくためには，子育て支援者へ知識及び技術面等のバックアップの充実が重要な課題となる。

総じて，子育て支援においては，子育て支援者への支援が最重要課題であると考察される。子育て支援事業が活発になってきたが，子育て支援センター等の施設を充実させるだけで満足して終わらせてはならない。子育て支援を行うのは，施設ではなく，“人間”である。その子育て支援に携わる人々へのフォローが継続的に行われることで，より充実した子育支援を行うことが可能になる。

東濃地区では，年に３回，子育て支援者の研修会が設けられているということが明らかになった。そこでは，各子育て支援センターの職員が集まり，遊びの提案や日頃の支援内容の見直し等が行われていた。このように，子育て支援者が交流し合うことで，お互いのスキルアップや悩みを解消することができる。西濃地域においてもこうした研修会が行われることを期待したい。

＜謝辞＞

大変お忙しい中，調査にご協力いただきました子育て支援事業従事者の皆様に，心よりお礼申し上げます。

＜引用・参考文献＞

・今村光章・村井尚子・今村民子，2004，地域子育て支援センター事業従事者に関する研究：岐阜県における調査・事例研究を通して，家庭教育研究所紀要　第26号，pp.27-38.
・今村光章・村井尚子，2005，岐阜県における子育て支援センターの現状と課題，岐阜大学教育学部研究報告　教育実践研究　第７巻，pp.139－155.
・今村民子・居﨑時江・高田全代・徳広圭子・今村光章，2009，岐阜県東濃地区における子育て支援センターの現状と課題：「子育て支援者トーキング研修」を通じて，岐阜大学教育学部研究報告　教育実践研究，第11巻，pp.153-168.
・徳広圭子・今村民子・居﨑時江・高田全代・今村光章，2009，岐阜県岐阜圏域における子育て支援センターの現状と課題：「子育て支援者トーキング研修」の試み，岐阜聖徳学園大学短期大学部，岐阜聖徳園大学短期大学部紀要，第41号，pp.119-136.
・居﨑時江・高田全代・今村民子・徳広圭子・今村光章，2009，岐阜県西濃地域における子育て支援者の資質向上を目指して：ロールプレイ「エアー支援」の試みを通じて，大垣女子短期大学紀要，第50号，pp.69－81.

（紙数の都合上，質問紙は省略する）